

医療施設長 様

鹿児島市医師会臨床検査センター
センター長 上ノ町 仁

新規実施項目のお知らせ

日頃より当検査センターをご利用いただき、誠にありがとうございます。
この度、外部委託先の S R L より、下記の新規実施項目の案内がありましたのでお知らせいたします。
該当する検査項目をご依頼いただく際はご注意ください。よろしくお願いいたします。よろしくお願ひ申し上げます。

記

■実施日

2020 年 9 月 1 日（火）ご依頼分より

■新規実施項目

検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
FGF23	血清 0.4	A 生化学 用 (茶)	凍結 (21日)	2~6	788 ※3	CLEIA	19.9~52.9 (pg/mL)	トロンビン入り採血管は測定値 に影響を与える恐れがあるため 使用を避けてください。 FGF23関連低リン血症性くる 病・骨軟化症のカットオフ値は 30pg/mL以上です。

※3：生化学的検査（I）判断料

● FGF23〔CLEIA〕

低リン血症を伴うくる病・骨軟化症において、本項目をご活用ください。

線維芽細胞増殖因子23（Fibroblast growth factor 23：FGF23）は、血中リン濃度の調節を行うホルモンで、主に骨細胞により産生され、Klotho-FGF受容体複合体に結合することにより、腎近位尿細管でのリン再吸収と、血中1,25-水酸化ビタミンD濃度の低下を介する腸管のリン吸収を抑制させます。

血中FGF23は、*PHEX*遺伝子異常によるX染色体連鎖性低リン血症性くる病（X-linked hypophosphatemic rickets：XLH）や、FGF23産生腫瘍による腫瘍性骨軟化症（Tumor-induced osteomalacia：TIO）などの低リン血症において高値を示しますが、ビタミンD欠乏やビタミンD代謝障害、腎尿細管異常、リン欠乏を伴う低リン血症性くる病・骨軟化症においては低値を示します。

また、近年ではFGF23作用を阻害することにより低リン血症や成長障害が改善することが報告されています。

本項目は血清中のFGF23をCLEIA法により測定いたします。FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症の診断補助に有用です。

▼疾患との関連

低リン血症性くる病・骨軟化症

▼関連する主な検査項目

アルカリフォスファターゼ（ALP）
1,25-（OH）₂ビタミンD
25ヒドロキシビタミンD

▼検査要項

検査項目名	FGF23〔CLEIA〕
検体量	血清 0.4 mL
容器	A 生化学用（茶）
保存方法	凍結保存してください
所要日数	2～6 日
検査方法	CLEIA
基準値	19.9～52.9 (pg/mL)
検査実施料	788点 (「D007」血液化学検査「61及び62」)
判断料	144点(生化学的検査(I)判断料)
備考	トロンビン入り採血管は測定値に影響を与える恐れがあるため使用を避けてください。 FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症のカットオフ値は30pg/mL以上です。

●参考文献

和泉 裕一，他：医療と検査機器・試薬 42（3）：219～224，2019。（検査方法参考文献）
福本 誠二：ホルモンと臨床61（6）：493～497，2013。（臨床的意義参考文献）